

●平成 28 年度推薦入学試験についての講評

1 小論文

(1) 方法

「18 歳選挙権」に関する社説を示し、「記事が主張する課題をふまえた上で、あなたは投票を通して政治に参加するにあたって、どのような準備をしますか。具体的に述べてください。」として、受験生の考えを問うた。

課題文（社説）は「参政権の拡大は若者が政治への関心を高め、民主主義を学ぶ契機である。将来を担う世代を重視した政策を実現するためにも、教育の役割が重要である」と主張する。

高校生にとって身近な問題である 18 歳選挙権に関する主張をふまえて、受験生自身がどのような準備をしようとしているかを具体的に述べるができるかどうかを見るものである。

アドミッション・ポリシーに沿って、「社会の問題の探求と解決に主体的に取り組む姿勢を持っていること」を確認することを目的とした出題である。

(2) 結果に関する評価

評価のポイントは、①課題文（社説）の内容・主張を適切に読み取り、それを踏まえて、②受験生自身の考えが述べられているか、である。

したがって、課題文の内容・主張を踏まえていない論文や、受験生自身の考えが述べられていない論文、極端に字数が足りない、またはオーバーしている論文は低い評価となった。

たとえば、課題である「準備」の部分が不明確な論文、自分自身の「準備」ではなく、教育のあり方や選挙制度について論じている論文、「準備」については書かれているが、その説明が不足している論文などである。

それに対し、課題文を踏まえて、自分が行うべき準備とその理由について順序立てて述べるなど、主体的に課題に取り組んでいる論文には高い評価が与えられた。

2 グループ面接

(1) 方法

事前（受験票送付の際）に、課題に関する「キーワード」を提示し、キーワードについて十分勉強してきたという前提で、自分の意見を理解しやすい形で発表できるか、グループ討議に建設的に参加しようとしているか、対立軸を設定して双方の立場から適切な状況把握ができるか、などの観点で評価した。

今回は「世界遺産については、観光客の増加など波及効果が見込まれる一方、環境対策など課題も指摘されている。登録された世界遺産を地域社会がどのように維持していけばよいか」を討論の課題とした。

事前に送付したキーワードは、「ユネスコ、文化遺産・自然遺産、観光資源、自然破壊、地域活性化」であった。

(2) 結果に関する講評

評価基準は、①表現する力（キーワードの的確な理解を前提に自分の意見を論理的かつ的確に伝える力）、②面接の態度（他人の発言を十分に理解できるよう真摯に聞き、積極的にかつ意欲的に討論に参加する態度）、③適性（議論の展開を発展させる発想、対立軸となる考え方を踏まえた多元的検討力

など)である。

グループ面接の結果、キーワードについてしっかりと学習してきた受験生は具体例なども豊富に示して、適切に発言することができ、評価も高かった。積極的に議論に参加し、説得力のある発言ができる受験生や議論をリードする力を持っている受験生も高い評価となった。また、他の受験生の意見に新たな情報を加えたり、その意見を別の見地から発展させるような態度は高く評価された。

一方、キーワードの学習が不十分だったり、他のメンバーの意見を聞かなかったりして、議論の流れをつかんだ発言ができないような受験生も見受けられた。課題や他者の意見を踏まえない発言は評価できない。他のメンバーに促されても意見が言えないような受験生も見られた。消極的な態度は評価できない。キーワードをしっかりと学習した上で、積極的に自己主張してもらいたいと思う。

3 個人面接

(1) 方法

1人約 20 分面接を行った。評価の基準は次の3点であった。

① 表現する力

自己推薦書やアピール・ポイントの内容をわかりやすく表現しているか。

自分の考えを面接員の質問に応じて理解しやすい形で表現しているか。

② 面接の態度

相手の発言を真摯に聞く態度であるか。

対話に参加しようとする姿勢であるか。

③ 適性や意欲

入学への真の意欲があるか。

「大学案内」などによってカリキュラムの内容を理解しているか。

(2) 結果に関する講評

上記の3つの基準を踏まえて評価した。その結果、面接員のコメントは下記のようなものであった。

① 「表現する力」に関するコメント

アピール・ポイントや自分の良さを自分の言葉で表現できる受験生には、高い評価が与えられている。アピール・ポイントとして特別な成果や成績があれば素晴らしいことだが、高校生として勉強、部活、生徒会、学校行事などで日頃から努力していることや、家族や地域社会の一員として頑張っていることがあれば是非アピールしてもらいたい。反対に、話の内容が抽象的で具体的な話ができず、書いてあること以上のことが言えないためにアピールにつながらない場合には評価は低くなる。

② 「面接の態度」に関するコメント

落ち着いて自然な受け答えができ、質問に臨機応変に対応できれば、高い評価は得られることは間違いない。しかしながら、このような態度で面接を受ける受験生は決して多くはない。たとえ緊張していても、真面目な態度で元気よくハキハキと質問に回答できれば高く評価される。

③ 「適性や意欲」に関するコメント

本学のアドミッション・ポリシーやカリキュラムについて、十分に理解しておいてもらいたい。特に学びたい科目の他に、専門課程（言語・文化、メディア・コミュニケーション、国際政治経済という3専攻）と教養課程（グローバル人材養成プログラムと現代教養科目群）の大枠の理解が不可欠である。本学の教育内容に理解が十分でないと、なぜ本学に入学したいのかという志望動機や入学目的が不明確となる。そうした場合に本学への入学の意欲を感じられなくなり評価は低くなる。さらに、

本学で何を学び、将来何がしたいのかという将来の展望をもって面接に臨んでほしい。本学での学修内容と将来展望のつながりが希薄である場合も評価は低くなる。